校長室だより「新生チーム千代田西部小」 笑顔と夢に溢れ地域と共に歩む学校

～せんだん～　令和2年7月1日 No34 校 長 實 松 清 之

「命の尊さを感じる純粋な心！」

～７月の全校朝会での話～(6/30 日 朝の時間)

「のらねこの死」　(心に残る感動秘話)

夏休みが始まってすぐのある日のこと、ラジオ体操から帰ってきた 10 歳の息子が、泣きそうな顔で私（お母さん）に言いました。

「お母さん、すぐそこに死んじゃいそうなネコがいるの。ねえねえ何とか助けてあげて。」

息子にひっぱられて路地を曲がると、ある家の庭の芝生の上に、のらネコが一匹、今にも死にそうな姿で横たわっていました。頬には大きな傷が有り、身体の所々の毛が抜け、口をあけて苦しそうにハアハアと息をしています。

「残念だけど、お母さんにはどうすることもできないわ。もうすぐ死ぬかも…」

そう息子に告げると、息子は涙目になって、何とかしたいと泣き始めました。すると、その家の奥さんが出て来て、泣いている息子を見て、獣医さんを呼んでくれました。でも獣医さんも出来ることはありませんでした。息子は自分が飼っているネコとそのネコが重なったからなのか、死を間近で感じることが初めてだったからなのか、ボロボロボロと泣き続けました。

「このネコちゃんは、みんなに見守られて天国に行けるなんて幸せだね。ありがとうね。」

その家の奥さんはそう言って息子に「100 万回生きたねこ」という絵本を下さりこう言いました。「世の中、悲しい事件が多いのに、のらネコの命にこんなに涙を流す子がいるなんて、私も心が洗われました。やさしいお子さんね…」と。

それから数日後、のらネコは静かに息をひきとりました。

(右上に続く↗)

そして、その死骸には、夏の暑い日陽しを避けるために、奥さんの黒い日傘が差してあり、息子や近所の子どもたちの手によって、色とりどりの花が飾られていました。

～ 後 略 ～

神埼市「４か条の誓い」の一つに、

●<u>すべてのものに思いやりの心で接します</u>

があります。その家の奥さんや子どもたちが、どんな気持ちで日傘を差したり花を飾ったりしたのか、考えるだけでも胸が熱くなります。

のらねこの死に瀕して、居ても立っても居られなくなった主人公の感性に共感し、のらネコの死が命の尊さを教えてくれる話であることに思いを馳せてくれれば…。放送の向こう側の子ども達の表情を想像し、そんな想いで読み語った６月最後の朝でした。因みに、「感性」は、本校が大切にしている重要項目の一つです！

ホッと一息

少々前のことですが、こんな微笑ましい光景が校内に広がりました。

「先生、大変です～う」

えっ、何が？？？

「先生、教室にツバメが入ってきています～」

日常と違うことがあれば、もう教室は、蜂の巣をつつくような大騒ぎ…。このままでは授業に集中できぬ！と、出くわした職員総出で、そっと校舎外に逃がしてやること数度…。優しい眼差しでツバメを見送る職員達の姿がそこにはありました。

しかし考えてみれば、「ツバメが巣を作る家は栄える（栄えている)」。そんな言い伝えが今でも残っているのでしょうか…。

ツバメに選んでもらった西部小には、幸せの空気が漂っているのかな？もしそうだったら嬉しいし、そうなるように益々頑張らなくては…。

この古里、西部校区のどこかで巣を作り、雛を育て、やがて元気に南の国に旅立って欲しいと願っています。